

ハガキ通信 読者の声

投稿歓迎、掲載時薄謝進呈

特集「バス交通と暮らし」(48巻2号)

バスは日常生活に欠かせない安くて安全な交通手段である。最近は全国的に市民サービスの小回りのできる百円バスが登場、人気を呼んでいる。さらに、全国に広がる高速バスは、乗り心地もよく大好評である。しかし、マイカー族の激増は過疎山村バスをはじめ、通勤バスの利用者を著しく減少させている。

ここにおいて、地域のバス事業は運営上に新たな課題がのしかかっている。特集では4題がそれぞれの角度から現代バス事情を詳細に論じている。小生は高速バス以外の路線バスをほとんど利用していないが、一市民として一考を要したい。優れた利点をもつバス交通を積極的に利用したいものである。

(鳥取市・清水 強)

特集「ハザードマップ最前線」(48巻9号)がよかった。北海道では、石狩川の洪水、有珠、大沼、樽前、十勝の火山活動、日高沖の地震など、目を離せない。このとき防災予防としてハザードマップが有効である。9月号で地理学からの提言、解説を特集したもので、地域住民の立場からその全貌を把握でき、避難上からも非常に参考となった。

(札幌市・蝦名良治)

特集「パンタナール」(48巻12号)

今年3月にパンタナールを歩いてみて、今回の12月号の記事を考えながら読んで

みました。よかったです。

(東京都・吉田英樹)

場所「アルパニア」(48号2月号)

経済的に疲弊し、貧しくボロボロの服を着、ボロボロの車が走っているとの報告。しかし、人びとは愉快で友だちがいがあり情が深い。一方の日本は経済的に豊かで、きれいな服を着、燃費のよい車が走っている。しかし人びとの表情は冷たく、町行く人びとはしかめっ面をしている。お金があっても不安な日本人。国民の間に、徐々に生活の質を落としていくことへの合意ができれば、もっと生きやすい社会になると思うのだが、夢物語を見たい今日この頃である。

(高槻市・源五郎丸崇)

連載「東京低地の形成を考える」を興味深く読ませていただきました。4歳から24歳まで東京低地で暮らしましたので、連載が始まったときから毎号まちかねて、という感じでした。小学校1年生のとき(昭和22年)葛飾区金町に住んでいましたので、「栗橋で堤防が決壊した」と大人たちが血相を変えていたのが記憶にありますし、昭和24年からは神田川の近くに暮らしましたので。

(東京都・井上百合子)

裏表紙に交互に掲載されている「日本の開発と環境」と「宇宙から見たユネスコ世界遺産」の写真をいつも興味深く見ている。新旧の地図を比較しながら解説を読んでいくと、変化のようすが手にとるようにわかる。とくに48巻5号(通巻573号)は地元の千葉ということもあり、実際の景観を思い浮かべたり、過去を思い出したりしながら、興味深く見ることができた。

(千葉県・白井千万里)